

登録コード	E2001900	開講年度	2026			
授業科目	日本語史				担当教員	大橋 敦夫
英文授業名	History of Japanese Language				副担当	小林 比出代
単位数	2	講義期間		曜日・時限	金曜・1時限	対象学生
講義室	教育N 2 0 1 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	現代日本語の特質がいかなる経緯によって成り立っているかを理解するため、次の手順で学んでいく。まず、日本語の歴史を概観し、続いて各時代の日本語の特徴について学ぶ。以上をベースにして、国語科の授業を展開する上でポイントとなる日本語資料・事例について、ケーススタディを重ねていく。					
(5)授業計画	第1回 日本語の特質・日本語史概観 第2回 上代の日本語 第3回 中古の日本語 第4回 中世の日本語 第5回 近世の日本語 第6回 近代の日本語 第7回 現代の日本語 第8回 分野ごとの通史・概観 第9回 ケーススタディ①ローマ字資料を読む（『天草版イソホ物語』） 第10回 ② 承前 （『天草版金句集』） 第11回 ③寺子屋・往来物：近世の国語教育 第12回 ④国定教科書：近代教育の始まり 第13回 ⑤広辞苑：国語辞書の編纂と活用 第14回 ⑥古語は方言に残る：長野県の方言／総まとめ／授業アンケート					
(6)成績評価の方法	小課題6点（59％）……授業に関するリアクションペーパーなど（テーマは都度指示する） 期末レポート（41％）……任意に選んだ日本語史上の事例を国語科教材として展開する計画書を作成する。					
(7)成績評価の基準	秀：日本語史の概要を理解し、独自の観点で授業課題を設定でき、その成果から新たな課題を見いだせる。 優：日本語史の概要を理解し、独自の観点で授業課題を設定できる。 良：日本語史の概要を理解し、授業課題を設定できる。 可：日本語史の概要を理解している。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	日本文学史で学んだ内容を基礎に事前学習を進められたい。事後は、学びの対象となった資料の位置づけをキチンと行いたい。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって。60時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	国語科教科書・国語便覧を手元に置いてフル活用しましょう。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談は、授業内もしくは授業時間の前後に対応します。					
【教科書】	指定しない／プリント配布					
【参考文献】	附属図書館所蔵の日本語史概説書／個別的な文献は、各授業内で紹介します。					